写像—単射・全射・全単射・逆写像

戸瀬　信之

ITOSE PROJECT

V01 Sep 25, 2020 for SLIN2020 L08

全射 (1)

集合 X, Y と写像 $f\colon X \to Y$ について考えます.

Definition

$$f(X) = Y$$

が成立するとき，すなわち

$$\forall y \in Y \text{ に対して} \exists x \in X \text{が存在して} f(x) = y$$

が成立するとき，f は**全射**であるといいます.

全射 (2)

Theorem

$g: \ Y \to X$ が存在して
$$f \circ g = id_Y$$
を満たせば，f は全射となります.

証明　任意の $y \in Y$ に対して
$$y = f(g(y))$$
が成立しますから，f が全射であることが分かります.

単射 (1)

集合 X, Y と写像 $f\colon X \to Y$ について考えます.

Definition

任意の $x, x' \in X$ に対して

$$f(x) = f(x') \quad \Rightarrow \quad x = x'$$

が成立するとき f は単射であるといいます.

単射 (2)・全単射

Theorem

ある写像 $g\colon Y \to X$ が

$$g \circ f = id_X$$

を満たせば，f は単射となります.

Definition

f が全射でかつ単射であるとき**全単射**であるといいます.

逆写像 (1)

Definition

写像 $f\colon X \to Y$ に対して

$$g \circ f = id_X, \quad f \circ g = id_Y \tag{1}$$

を満たす g を f の**逆写像**と呼びます.

逆写像 (2)

逆写像は存在すれば一意的に定まります．すなわち 2 つの写像

$$g_1 :\ Y \to X, \quad g_2 :\ Y \to X$$

が

$$g_1 \circ f = id_X,\ f \circ g_1 = id_Y,\ g_2 \circ f = id_X,\ f \circ g_2 = id_Y$$

を満たすならば $g_1 = g_2$ が成立します．実際

$$g_2 = id_X \circ g_2 = (g_1 \circ f) \circ g_2 = g_1 \circ (f \circ g_2) = g_1 \circ id_Y = g_1$$

からこのことは証明できます．この一意性から f の逆写像を

$$f^{-1} :\ Y \to X$$

と記します．

逆写像 (3)

Theorem

$f : X \to Y$ に逆写像 $g : \ Y \to X$ が存在すれば f は全単射であることが従います.

逆写像 (4)

Theorem

写像 $f\colon X \to Y$ が全単射ならば，f には逆写像が存在します．

証明 逆写像 $g\colon Y \to X$ を構成します．f は全射ですから任意の $y \in Y$ に対して

$$y = f(x)$$

を満たす $x \in X$ が存在します．しかもこの条件を満たす $x \in X$ はただ一つ存在します．実際 f は単射ですから

$$f(x) = f(x') \quad \text{から} \quad x = x'$$

が従うからです．

逆写像 (5)

この状況で

$$g(y) := x$$

と定義します．これから

$$y = f(g(y))$$

が成立することが分かります．さらに任意の $x \in X$ に対して $y = f(x)$ と定めると g の定義から $g(y) = x$ となりますが

$$g(f(x)) = x$$

が従います．